

野菜の生育状況及び価格見通し（平成26年7月）について
 （東京都中央卸売市場における主産県及び卸売会社からの聞き取りによる）

（総論）

品目	現在の生育状況
根菜類 (だいこん、にんじん)	生育は、概ね順調。
葉茎菜類 (はくさい、キャベツ等)	生育は、概ね順調。
果菜類 (きゅうり、なす等)	生育は、概ね順調。 ただし、なすは群馬県のハウス栽培において、2月の大雪に伴うハウス倒壊の被害を受け、一部で栽培できない状況。
土物類 (ばれいしょ、さといも、たまねぎ)	生育は、概ね順調。 ただし、さといもは前年12月～3月の生育期の低温、乾燥等の影響により小玉傾向。

（各論）

品目	主産県 ※()書きは 昨年7月の入 荷シェア。	今後の生育及び出荷見通し	価格見通し (平年比)	
			7月前半	7月後半
だいこん	北海道(55%) 青森(38%)	・生育は概ね順調であり、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並</u> になる見込み。	→	→
にんじん	青森(43%) 千葉(30%)	・生育は概ね順調であり、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並</u> になる見込み。	→	→

はくさい	長野(89%) 群馬(8%)	・6月以降の降雨に加え、6月中旬の夜温の低下により生育がやや遅れていたものの、その後の気温上昇に伴い、生育が回復してきていることから、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並になる見込み。</u>	→	→
キャベツ	群馬(64%) 岩手(14%)	・生育は概ね順調であり、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並になる見込み。</u>	→	→
ほうれんそう	群馬(26%) 栃木(22%)	・群馬県において、7月以降ハウス倒壊被害の小さかった産地に切り替わり、生育が概ね順調であることから、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並になる見込み。</u>	→	→
ねぎ	茨城(60%) 千葉(13%)	・生育は概ね順調であり、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並になる見込み。</u>	→	→
レタス	長野(85%) 群馬(10%)	・6月以降の降雨に加え、6月中旬の夜温の低下により生育がやや遅れていたものの、その後の気温上昇に伴い、生育が回復してきていることから、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並になる見込み。</u>	→	→
きゅうり	福島(39%) 岩手(12%)	・2月の大雪に伴うハウス倒壊の被害を受けた群馬・埼玉県からの出荷が終盤となる中、東北産地の露地栽培の出荷が本格化し、生育は概ね順調であることから、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並になる見込み。</u>	→	→
なす	群馬(29%) 茨城(26%)	・群馬県において、2月の大雪に伴うハウス倒壊の被害を受け、一部で栽培ができない状況にあることから、 <u>前半は、出荷数量が平年を下回るため、価格は平年を上回る見込み。</u> ・後半は、ハウス栽培から露地栽培の出荷が中心となり、生育は概ね順調であることから、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並になる見込み。</u>	↗	→

トマト	青森(16%) 北海道(13%)	・生育は概ね順調であり、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並</u> になる見込み。	→	→
ピーマン	茨城(53%) 岩手(15%)	・生育は概ね順調であり、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並</u> になる見込み。	→	→
ばれいしょ	茨城(32%) 千葉(20%)	・生育は概ね順調であり、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並</u> になる見込み。	→	→
さといも	宮崎(62%) 鹿児島(23%)	・出荷盛期となる一部産地において、前年12月～3月の生育期の低温、乾燥等の影響により小玉傾向となっていることから、 <u>前半は、出荷数量が平年を下回るため、価格は平年を上回る見込み。</u> ・後半は、産地が切り替わり、生育は概ね順調であることから、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並</u> になる見込み。	↗	→
たまねぎ	佐賀(45%) 兵庫(26%)	・主産地において収穫作業は概ね終了し、4月中旬以降の降雨等により一部で病害が発生したものの、収量は概ね平年並みであることから、 <u>出荷数量、価格ともに概ね平年並</u> になる見込み。	→	→